

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	79人	社会	79人	数学	79人
	理科	79人	英語	79人		

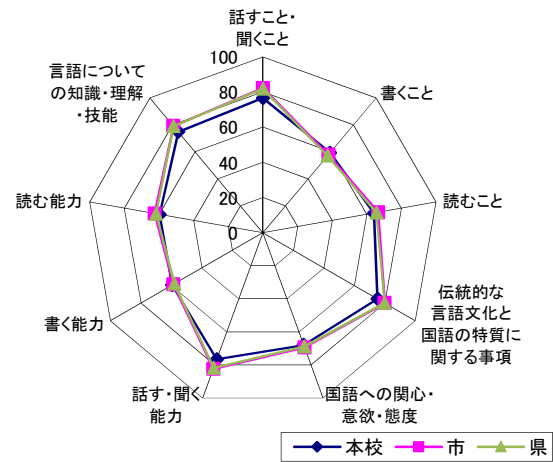
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	76.6	82.3	81.8
	書くこと	59.3	58.0	57.2
	読むこと	64.1	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	67.9	69.4	68.8
	話す・聞く能力	76.6	82.3	81.8
	書く能力	59.6	58.8	58.1
	読む能力	59.6	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	74.9	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

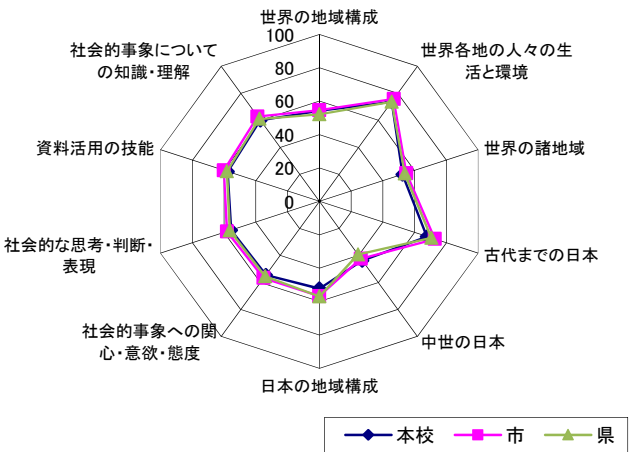
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県・市の平均よりも低かった。 ○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることについての正答率は、市や県とあまり相違なかった。 ●話の内容を正確に聞くこと、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる部分に課題が残る。	・聞き取りテストの継続的な実施はもとより、コロナ禍の中でできるスピーチ発表や、グループ学習のやり方を模索していくことで、「話すこと・聞くこと」の学習機会を削減しないようにしていきたい。 ・昨年度から、今年度にかけて最もコロナ禍の影響を受けた単元であるため、教師による授業形態の工夫に努める。
書くこと	平均正答率は、県・市をやや上回った。 ○作文における出題のねらいはほぼ県の正答率を上回った。特に「指定された文字数で書く」、「自分の考えを明確にして書く」はそれぞれ9.3ポイント、7.3ポイント上回る結果となった。 ●短文記述の、「食品ロスについてレポートを書く」問題では課題が残った。	・作文指導や「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくことで、「書く」能力を育成し、高校入試等の作文にも自信をもって取り組める生徒を養成していきたい。 ・「自分の考えを明確にして書く」ことに課題が残る結果であったので、ミニレポートの課題提出などで指導を強化していく。
読むこと	平均正答率は、県・市の平均をやや下回った。 ○説明文の内容を読み取る問題においては県の正答率と大きく差がある観点はなかった。 ●文学作品を読み取る問題において、県の正答率と大きな隔たりがある観点があった。特に「工場人物の心情の変化を捉える」問題においては校内正答率は42.5ポイントと県の正答率を7.0ポイント下回る結果であった。	・説明的文章は授業の中で、取り組み方やコツを伝える時間を割き、解説をしているため、その成果が微細ながら表れてきている。これを継続していきたい。 ・対して物語文では、心情の読み取りや心情の変化など、情報機器を用いて他者との意見交流など工夫できると思う。授業の中の対話的な発問を繰り返していくことで生徒一人毎の深い読みを実現していきたいと考える。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県・市の平均をそれぞれ4.7、4.8ポイント下回る結果となった。 ○漢字の読みにおいて、校内正答率が100%になった問題があった。 ●漢字書き取りについて課題が残る、特に「貸す」という漢字は県の正答率を15ポイント以上下回る40.0%という結果であった。	・漢字の読みについては基礎的な力は身につけてきている。これからも授業冒頭での漢字テストや、漢字ドリルの定期的な提出から漢字力を底上げしていきたい。 ・漢字書き取りについては読み取りよりも正答率が低く、未定着な漢字が多いため、「書き」の範囲の漢字テストを重点的に行うなどして力を向上させていきたいと考える。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	54.4	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	73.8	75.9	73.7
	世界の諸地域	52.4	54.8	53.9
	古代までの日本	67.8	72.7	70.5
	中世の日本	43.7	42.4	39.3
	日本の地域構成	52.2	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	54.4	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	55.6	58.1	56.4
	資料活用・技能	57.7	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	60.1	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

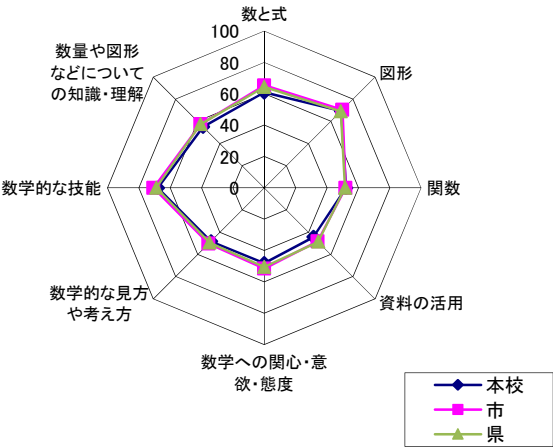
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の地域構成では、県平均を2.1ポイント上回っている。 ○方位の読み取りや世界の地域区分については県平均を上回っている。 ●モルワイデ図法の特徴については県平均を下回っている。	・授業において地図帳を積極的に活用し、どの地図を活用していくが必要かなど、各地図の特徴を確認する機会が増えるよう指導する。
世界各地の人々の生活と環境	○世界の地域構成では、県平均を0.1ポイント上回っている。 ○冷帯の人々のくらしや雨温図の問題については、平均を上回っている。 ●乾燥帯のオアシスについての問題に対しては、平均を下回っている。	・生活や自然環境と気候帯を関連付けるために、分布の特徴や植生についてなど、資料から読み取る際の着眼点の指導を繰り返すとともに、雨温図の読み取りについてもそれぞれの気候帯と比較する機会を増やし、技能を高めたい。
世界の諸地域	○ヨーロッパの経済格差について、資料をもとに判断する設問では平均を上回っている。 ●世界の諸地域では、市平均を2.4ポイント、県平均を1.5ポイント下回っている。 ●モノカルチャー経済の国が抱える課題について、資料をもとに考察し、表現する設問について平均を下回っている。	・世界の諸地域については、それぞれの州の地域的特色を整理することでさらに理解を深めていきたい。 ・各地域の抱える課題については統計資料などの読み取りなど比較する時間を設けるとともに気付いたことや読み取ったことを表現する時間を確保する。
古代までの日本	○世紀の表し方に関する設問は平均を上回っている。 ●古代までの日本では、市平均を4.9ポイント、県平均を2.7ポイント下回っている。 ●縄文時代に使われた道具や奈良時代の人々の負担について複数の資料を基に考察する、香典永年私財法についての設問は平均を下回っている。	・小学校の歴史で学習している人物についての理解はできていると考えられるので、時代や人物同士のつながりを意識させるようにしたい。 ・各時代の特徴的な政策などを整理することで理解を深めていきたい。
中世の日本	○中世の日本では、市平均を1.3ポイント、県平均を4.4ポイント上回っている。 ○戦国大名による支配について、資料をもとに判断する設問は平均を上回っている。	・中世の日本についての理解は、平均を上回ることができているが、複数の資料の読み取りや表現について苦手とする生徒も見られるので、複数の資料を比較する指導をすることで理解を深めていきたい。
日本の地域構成	○日本の領域をめぐる問題についての設問は平均を上回っている。 ●日本の地域構成では、市平均を2.8ポイント、県平均を1.0ポイント下回っている。 ●日本の標準時子午線や排他的経済水域についての設問は平均を下回っている。	・日本の領域や近隣諸国との関係や課題など、島国である日本の特色をおさえることで理解を深めていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.9	65.4	64.4
	図形	69.2	70.5	69.0
	関数	52.2	51.9	51.5
	資料の活用	44.3	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	48.0	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	48.1	50.2	49.4
	数学的な技能	67.9	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	55.2	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

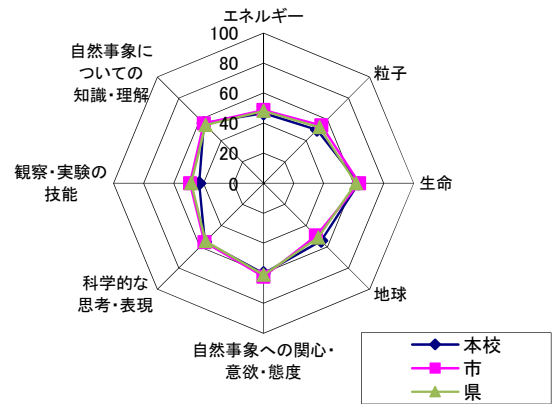
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「比例式を解く」の問題については、県と比べて4.7ポイント上回っている。 ●数と式の領域全体は県に比べて3.5ポイント低い結果となった。そのなかでも、県に比べて「移項をしない1次方程式」の問題は10.4ポイントも下回っている。	・方程式の解き方についてもう一度授業の中で確認する時間を設けて、復習を行っていく。基本的な計算のきまり、文字の使い方などが定着していないので、小テストを利用して、確認する時間を設けていく。また、数量の関係を式に表す問題が苦手なので、これに関する問題を何度も取り組ませることで、改善を図っていきたい。
図形	○図形の領域全体は県に比べて0.2ポイント高い結果となった。「回転移動」の問題では1.2ポイント、「作図問題」では2.4ポイント、県の平均より上回っている。 ●「平面図形を回転させてできる立体」の問題は県より5.6ポイント低くなった。	・回転体の体積や表面積の求め方について復習する時間を授業で設けて、確認させていく。また、平行や垂直、ねじれの位置といった、空間図形の位置関係については、図形の単元において1年生の復習を加えながら指導をする。 ・上位層と下位層の差が大きいため、習熟度別学習を効果的に活用していく。
関数	○関数の領域は県に比べて0.7ポイント高く、市と比べても0.3ポイント高い。特に、「比例・反比例の値の変化」の問題は県比で正答率が7.5ポイント高い。 ●「関数の定義を答える」の問題については18.3ポイント県に比べて低い。関数への根本的な理解が低いことがわかる。	・関数の定義について、改めて確認する。関数の基本である「表・式・グラフ」を関連させて考えられるように今後も継続して指導にあたっていく。特に、1次関数の単元では、1年生の比例や反比例の復習を加えながら、グラフ読み取り問題の利用方法を説明させたりするなど、数学的に考える機会を増やしていく。 ・習熟度別学習を取り入れ、またグループ活動を通して、対話的に深い学びができるようにしていく。
資料の活用	○「相対度数」についての問題では、県と比べて0.4ポイント高い。 ●資料の活用の領域では、県に比べて4.3ポイント低い。また、「累積度数」の問題では、県と比べて10.2ポイント低い。	・確率の単元において、根拠となる値を求めたり、判断したりするなど、活用の観点の思考・判断となる部分の向上に努めていく。また、「累積度数」や、資料の活用における用語の復習を行う機会を設け、基礎基本の定着を図っていく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	46.7	48.8	48.1
	粒子	50.4	54.4	52.6
	生命	63.3	63.7	61.5
	地球	54.2	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.1	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	55.4	55.7	54.8
	観察・実験の技能	42.9	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	56.5	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

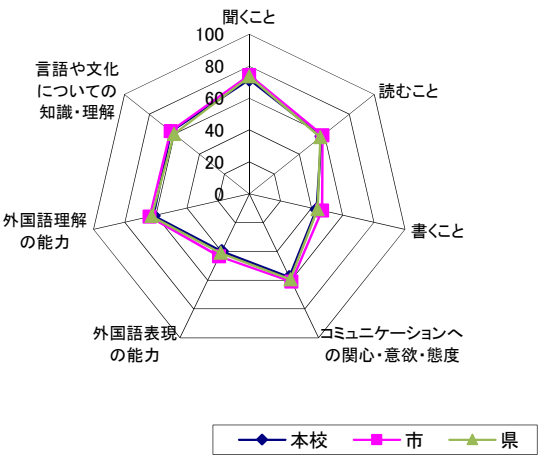
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は市、県の平均と比べて低い。 ○光、音の領域では県に比べてほぼ同じか高い。基礎的な内容を重視した指導の成果であると考えられる。 ●力の性質の領域では正答率が大きく低い。特にグラフの作成では校内正答率が7.6%であり、正解者が極端に少ない。そのあとの問題がそのグラフをもとに考える問題でもあるので以後の問題の正答率も上がらなかった。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで底上げをしていきたい。 ・グラフを作成する意味が理解されていないと思われる。思考ツールとしてグラフを活用する力をつけていきたい。具体的には授業でのグラフ作成の機会を生かして、作成の基礎と活用を丁寧に指導していきたい。また、数的な関係に苦手意識がある生徒がいるので、計算力をつけさせる工夫も併せて行う。
粒子	平均正答率は市、県の平均と比べて低い。 ○状態変化の領域では県の正答率に比べてやや高い。基礎的な内容を重視した指導の成果であると考えられる。 ●水溶液の性質の領域では正答率が低い。特に密度の計算では正答率が特に低い。数的な関係に対するの苦手意識があると考えられる。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで底上げをしていきたい。 ・密度の計算など数的な関係に苦手意識がある生徒がいるので、計算力をつけさせる指導を行う。 ・気体の性質については水素の発生方法を実験で示すような指導を検討していきたい。
生命	平均正答率は市、県の平均とほぼ同じ。 ○動物の分類の領域では県の正答率に比べて高い。基礎的な内容を重視した指導の成果であると考えられる。 ●植物の分類の領域では顕微鏡を使う手順で正答率が低い。また、葉のようすから単子葉類に分類する問題でも正答率が低かった。問題文を読み取る力が不足している部分があると考えられる。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続する。 ・顕微鏡の使い方では実際に使うことで正しい手順を理解できるような指導を検討していきたい。 ・問題文を読み取る力が不足していると感じる面があるので、教科書の音読など文章をよく読む指導を継続する。
地球	平均正答率は市、県の平均に比べて高い。 ○火山の領域、地層の領域ともに県の正答率に比べて高い。基礎的な内容を重視した指導の成果であると考えられる。 ●火山岩のでき方を答える問題で正答率が低かった。記述形式で答える力が不足している部分があると考えられる。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続する。 ・記述形式で正しく答える力が不足している部分があると思えるので、文章で答える場面を授業やテストで増やすなど文章力をつける指導を検討していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.7	74.4	73.5
	読むこと	57.9	58.7	56.9
	書くこと	43.3	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	58.0	61.0	59.4
	外国語表現の能力	39.9	43.5	41.1
	外国語理解の能力	61.5	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	62.7	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵を適切に表している英文(動作と場所)を聞き取る問題では、校内正答率が100%である。また、同じく絵を適切に表している英文(やっではいけないこと)を聞き取る問題では、県と比べて2.0ポイント上回っている。 ●絵を適切に表している英文(時刻)を聞き取る問題では、県と比べて4.6ポイント下回っており、英文の要点を聞き取る問題では県より7.6ポイント下回っている。	・日頃の授業で、洋楽を聞いたり、教師側がたくさん英語を使ったり、英単語や英文の発音練習を何度も行ったりすることで、英単語の音そのものに慣れていけるようにする。 ・疑問詞を用いた疑問文の聞き取りも苦手なので、疑問詞の復習にも力を入れていき、リスニング力向上を図っていききたい。
読むこと	○読むことの領域全体では、県と比べて1.0ポイント上回っている。語形・語法を理解する問題では代名詞themとwhoseの両方で、県と比べてそれぞれ7.0ポイントと5.9ポイント上回っている。 ●読み取った内容をふまえて英文を完成させる問題では、県より8.5ポイント下回っている。	・教科書の内容をじっくりと読み、内容を理解しようと努めている成果が出たのではないかなと思う。今後とも文中の代名詞が具体的に何を示しているのかなど、細かい点にも注意しながら読めるよう授業を展開していききたい。 ・あらかじめ本文の内容を読み取れたとしても、それをもとに英文を作るとなると苦手意識を持ってしまい、なかなか挑戦できない生徒も少なくない。まずは教科書の内容の簡単な英問英答を解かせるなどして、苦手意識を払拭していききたい。
書くこと	○英文を正しい語順で書く問題(否定の命令文)では県の正答率と全く同じで、英文を正しい語順で書く問題(現在進行形の疑問文)では県と比べて1.8ポイント上回っている。また、対話の流れに合った英文を書く(whoを使って人物をたずねる)問題では、県と比較して7.7ポイント上回っている。 ●3文以上の英作文で、自分の出身地についてまとめた内容で説明する文を書き表す問題では、自分の出身地について説明する分を付け加えて書く問題が県と比べて4.4ポイント下回っている。	・語順を問う問題では比較的正答率が高く、語順問題専用の補助教材を使うことで力がついてきているのだと思う。引き続き、基本的な語順の問題を何度も繰り返して解かせていききたい。 ・「読むこと」でも述べたように、英作文に漠然とした苦手意識や不安感を覚えている生徒が多く、無回答のままの生徒もいる。自分のことを簡単な英文で表現できるよう、アクティビティを工夫していくことや、英語での自己表現のために必要な語彙力の向上を図るために英単語テストの実施も継続して行っていききたい。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習についての質問では、「自分で計画を立てて学習している」の肯定的回答が79.6%で、市の平均を13.2ポイント上回っており、「授業の復習をしている」の肯定的回答は94.9%で、市の平均をやや上回っている。「テストで間違えた問題を勉強している」に対する肯定的回答は73.4%で、市の平均をやや上回っている。「家で、学校の授業の復習をしている」では、「はい」と答えた生徒が1番多く、市の平均を4.6ポイント上回っている。

○平日の学習時間に対する質問では、「3時間以上」の回答が11.4%、「2時間以上3時間より少ない」の回答は、27.8%でともに市の平均を上回っている。

○授業での様子に関する質問では、「グループでの話し合い活動に自分から進んで参加している」50.6%で市の平均を8.5ポイント上回っている。また、「自分の考えを発表する機会を与えられている」は67.1%で市の平均を9.2ポイント上回り、「クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は57.0%で市の平均を3.8ポイント上回っている。話し合い活動は充実しており、「友だちの前で自分の考えや意見発表することは得意である」の回答で「どちらかと言えば、はい」が40.5%で、肯定的回答も市の平均を20.1ポイント上回っている。

○「授業のめあてが示されているか」の回答では、88.6%で市の平均を12.7ポイント上回り、「学習したことを振り返る活動をよくおこなっている」、「授業ノートには、学習の目標とまとめを書いている」の回答では、市・県の平均を上回っているなど、振り返りをいかした授業が行われている。

●「学校の授業の予習をしている」に対しては、「どちらかといえばいいえ」の割合が一番多く、市の平均より4.5ポイント上回っている。このことから、生徒たちは復習を中心とした家庭学習に取り組んでいることがわかる。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対して、「どちらかといえば、いいえ」と回答した生徒が一番多く市の平均より7.6ポイントも上回っており、自主的な取組が課題だと思われる。

●平日の学習時間に対する質問において、「1時間以上2時間より少ない」と答えた生徒が一番多く、市の平均より4.9ポイント低く、「全くない」の回答は1.3%おり、生徒差が大きいことがわかった。また、「平日の読書時間」においても、「全くない」の回答が一番多く、34.2%であった。このことから、今後は、進路決定に向け、少しずつ学習時間を増やし、自ら学べるようになると学力向上に繋がると思われる。

●「学校の宿題は、自分のためになっている」は55.7%で市の平均より4.2ポイント上回っているが、「勉強していておもしろい、楽しい」と「不思議だな」「なぜだろう」の回答は、市の平均をやや下回っている。このことから与えられた課題に対しては真面目に取り組めるので、疑問点をもって学習をすすめるとさらに理解が深められる。

●「自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」、「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができている」、「授業を集中して受けている」の肯定的回答では、市の平均、県の平均を下回っている。このことから、読書する時間を確保し、文章に触れる機会を増やしてことが、コミュニケーションに繋がると思われる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫。	学習目標や課題を分かりやすく提示する。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は97.5%と高く昨年度と比べて3.7ポイント増え、市・県の平均よりも上回った。
	主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)の実践に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は82.2%で、市の平均と比べて7.3ポイント高い。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は64.5%と、半数以上の生徒が「書く」ことに苦手意識をもっている。「表現」に関わる問題の校内正答率において、国語の「書く能力」は市の平均を0.8ポイント上回ったが、英語の「外国語表現の能力」は2.5ポイント下回った。また、「思考・表現」でも、社会は2.5ポイント、理科は0.3ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学校の授業時間以外に、ふだん、読書をしている生徒が少ない。	読書活動の充実	・教科や総合的な学習の時間の調べ学習などで、積極的に図書室を活用する。 ・図書ボランティアや教職員によるブックトークや読み聞かせを継続して行う。 ・図書だよりや多読者紹介等による読書啓発や、壁面掲示等での促進活動の充実を図る。